

ダム建設環境影響評価に関する公聴会での発言

川辺川ダム建設に物申す！

私は、球磨川から350m、この会場からは600mそこらの「下薩摩瀬町」に住んでいる「中務」と言います。最高210cmの浸水被害にあっています。緊急避難場所は、ここカルチャーパレスになつています。でも避難訓練には参加したことはありませんが、実際に非難したことは一度もありません。何しろ、ハザードマップでは同じレベルの地域ですから。

私は、ダム建設反対の立場から発言します。

私は、市房ダムが完成(60年)してほどない1964年・最初の東京オリンピックの年に、教職として赴任した学校が、市房ダム直下の「水上中学校」でした。

・それから2年で、不意にへき地志望者ということで、五木第一中学校へ転勤。

単車で五木の赴任地へ向かう途中、「藤田」付近であつたと思えます左手の川辺川中州には

「ダム建設反対」の看板が建てられていました。ここでもダム建設が持ち上がったのです。

すでに、私は教職を終えて5年目を迎えようとしている今日です。住民による反対運動は、やがて実に60年も続けられているのです。

■ 確か、市房ダムが完成して十数年たつた頃の錦中時代であつたと思います。

■ 私は「昔の球磨川を知る」というテーマで、生徒を引率し、どなたかの紹介で、確か相良町当たりのご年配の川漁師さんでしたが、インタビューし、テープに録音しました。その内容は、信じられないような話でした。

■ 「球磨川に入ると、周りには鮎がウヨウヨ泳いでいて、手づかみ出来るような状況であつた」とのことでした。

■ 次は、それからずいぶんたつた私が定年退職した頃の話ですから、市房ダム完成後、すでに40年ほどたつた頃の清流川辺川の話です。これは他人の話ではなく、私自身の体験談です。

■ 私が、初めて川辺川の川下りをしたのは、現人吉市議の本村さんのカヌーに乗せて頂いた時のことです。残念ながら魚の姿こそ眼にしなかつたのですが、その澄み切つた川は目を見張るばかりでした。川底の小石、砂の美しさに見とれたものでした。そして水面すれすれを飛ばすヤマセミが、時折、岩場に止まって魚をくわえ、頭を振り振り、岩にたたきつける姿を見るのは、私の一生の記念と言えるでしょう。さすが日本一の清流川辺川。こんな清流を失つてはならない。

■ とところが、やがて球磨川との合流点に達すると、川はだんだん白く濁つてきたのです。球磨川本流へ流れ込んだ、そのとたん、決して大げさではありません。急に牛乳を薄めたような白濁からやがてさらに、全く川底は見えなくなつてしまいました。その頃すでにそこまで球磨川は傷んでいたのです。

私は、今日のように、イヤ今日は県知事はいませんが、この会場で県知事と対面し、『クマタカの未来は、人類の未来を現す』と言われています。これ以上、クマタカが暮らせなくなるような自然の破壊をすすめるダム建設の断念を！と、その決断を迫りました。

■ それからはや20数年

■ 多分、その時期であつたように思います。熊日」の声の欄に、

「未来を優先させるばかりに、現在をおろそかにして欲しくない。より良い未来は現在の延長線上にあるのだから」とありました。

ダム建設推進の方のご意見かと思われれます。真面目な方のご意見のように感じました。しかし、私は思うのです。未来をおもんばかつて現在の地球という自然環境を重視することこそが、人類が生き延びる道ではないかと……。

最後に、この方のご意見のように、「ダム建設は財産と生命を守るにはやむを得ない」と思われる方々もいらつしやると思います。そんなことはありません。どこに、どんな力を尽くすかです。

- 「現在」がうち砕かれれば、取り返しのつかない未来へと道は、引き継がれて行きます。
- 地球は温暖化の時代を通過し、沸騰化の時代へと、突き進んでいるのです。今日の大災害は、その通過点ではありませんか。その自然破壊の最大の要因が、今やだれの目にも明白となっているではありませんか。
- もつともランプさんのように、そんな話に今なお耳をかさそうともしない方もいますが、でも、素晴らしい真理にはかなわないでしょう。

かつて願成寺の住人であった上田精一氏が寄稿された
短歌集「検証・球磨川大水害川辺川復興を問う！」より少しだけ詠ませて頂きます。

へ短歌 暴れる球磨川ふるさとを呑むくより

「人吉が大変ハイ」のメールくる 暴れる球磨川ふるさとを呑む

濁流に追われ2階に逃げのびし 妹ら家族は舟に拾わる

このご家族は温泉町にしまして、救助ヘリが来て1人ずつで間に合いそうにない。でもボランティアのラフティングのボートが来て、5人満杯だつそうです。しばらく待つてくれという事で帰って再び来てくれてそれで家族3人載せてくれて助かったということ。そのことが歌われております。

※ 坂本町の友人の手記から

「ほら来たぞヘリに向かつてタオル振れ」またも虚しく音遠ざかる

ヘリ上昇眼下 一面茶の海に 衝きあげきたる安堵と絶望

避難所の玄関に待つ妻ありて ただ抱きしめぬ ひたに声なく

実は、我が家から350mほどのところの球磨川本川堤防際に、私の人吉二中時代の教え子のご両親が、住んでおられて、そのご両親の小・中時代の同級生が、心配されて朝から電話をしたそうです、すると、「今、2階に逃げている。でも救助を消防署や警察署に電話をするけど出ない」と、そこで友人が私も電話を入れるからと励まし、助けを呼んだけどそれでもどこも出ないので、そのこと伝えようと折り返し電話を入れたが、一度とつながらなかった。とのこと。

その後、数日してお二人は隣の温泉町でご遺体で見つかった。とのこと。
その話をして、救助体制が日ごろから予算をかけて十分 整えていたら決して救えない命ではなかったはずではないか。

- 環境問題として最も怖いのはダム建設等の政府や大企業の提携・連携による大公共事業です。しかし、何といつても最も怖いのは、世界を見てもわかるように戦争です。そして企業ぐるみの戦争準備、軍事費の増大でしょう。
- その一部でも、災害をはじめとする人命救助に、多額の予算を計上されたなら今回のような大災害であれ、もつと多くの人命が救われたことでしょう。いや、ただの一人も命を失うことはなかったらどうと、私は確信しています。いやいや、災害そのものをなくすことも可能であると……。

以上、私は不十分ながら訴えました。なお、付加しますと、

昨年、発表されたアメリカ科学誌の研究(日本人学者らの)成果発表記事から「ナンジヤモンジヤゴケ」の話(地球上に恐竜が誕生するずっと以前の3億9000万年前に誕生したという世界最古の植物が、地球が毎年0.5度℃ずつ上昇するなか、恐竜が地球上から絶滅してもなお、生存できていたにもかかわらず今や、地球上から絶滅寸前にあるということ)も訴えたかった。